

# 公益財団法人仏教伝道協会

## 平成26年度事業計画書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、その目的を達成するため、定款に定める事業に沿って「平成26年度事業計画」を立案する。平成26年度は来年迎える協会設立50周年の記念事業の企画立案及び準備を進めるとともに、公益財団法人移行2年目を迎え、より公益性の高い財団として活動の域を広げていく。

### Ⅰ. 公益目的事業計画

#### 1. 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

##### (1) 「仏教聖典」各国語訳とその出版に関する事項

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語に及び、翻訳と共に既刊の「仏教聖典」をより現代に即した内容にするための改訂編纂に努めている。前年度に引き続き平成26年度はシンハラ語、ベトナム語、ポーランド語等の改訂を進める。

##### (2) 「仏教聖典」の普及に関する事項

世界の主要ホテルの客室に「仏教聖典」を寄贈常備する活動を行っている。平成26年度は国内外のホテルへ約65,000冊（国内15,000冊、海外50,000冊）の寄贈を予定している。また、病院、公共機関、行刑施設への寄贈活動も継続して行う。

仏教系学校および保育施設への聖典普及については、従来からの記念品用仏教聖典約10,000冊の頒布とあわせて、学生、保護者への聖典需要を喚起するため進めている「普及版仏教聖典」の寄贈活動を推進すると共に、社会福祉施設等への寄贈活動も活発化させる。寄贈数は100,000冊を予定している。

##### (3) 大蔵経の英訳・編集とその刊行に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を進めている。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国の英訳大蔵経出版委員会の協力のもと、第一期分として全体量の約10分の1に相当する139典籍の翻訳・刊行を進め、これまでにBDKアメリカより、76典籍46巻を刊行。

平成 26 年度は、より多くの方々が自由に閲覧、使用できるように当協会のホームページ上で既刊典籍の公開を行ないその利便性、公益性を高める。また大正新脩大蔵経テキストデータベース研究会（通称：SAT）との協力により検索機能を充実させたデータを公開し、Web 上での電子大蔵経の構築を進める。なお、平成 26 年度は第 47 巻目となる『弘明集』等の出版、新刊毎に約 200 冊の国内頒布を予定している。

#### （４）その他仏教書籍の出版、頒布に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育施設等へカレンダー・仏教書籍を制作、頒布している。その他、時宜にかなった仏教書籍を刊行、頒布する。

「仏教聖典」や古今の名言から選んだ『一日一訓カレンダー』は、平成 26 年度は 160,000 部を印刷、その内 120,000 部を全国約 1,000 ヶ寺に頒布し、残りの 40,000 部を国内外のホテル、病院等に寄贈する。また、仏教伝道協会設立 50 周年記念事業の一環として、平成 28 年用カレンダーに使用する写真 31 枚の一般公募を実施する。

平成 27 年用のカレンダーの解説書『みちしるべ - 正語』は、花園大学名誉教授西村恵信師に執筆を依頼し、約 90,000 部の頒布を予定している。さらに、設立 50 周年記念刊行物として、既刊みちしるべの中から、名講話 50 編を選出し、みちしるべ名講話選一『智慧』『慈悲』と題し各 25 編で刊行する。平成 26 年度は『智慧』を刊行予定。

次に昨年装丁を変え大変好評であった学習マンガ『仏教のひみつ』（普及版）は、引き続き 50,000 部を増刷し、仏教系学校や寺院等に配布し、学童期の情操教育の一助とする。また平成 26 年度は日本の児童だけでなく海外の児童にも仏教に触れてもらうため、このマンガの英語版の刊行を行い、海外にも頒布する。

## 2. 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

### （１）外国人留学生奨学金制度に関する事項

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を広く伝えて戴きたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

平成 26 年度奨学生の募集は、平成 25 年 10 月 3 日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約 150 通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、11 名の申請があった。

平成 26 年 2 月 5 日に外国人留学生奨学金審査委員会を開催し、平成 26 年度奨学生として、次の 3 名が選ばれた。この結果をもとに平成 26 年度外国人留学生奨学金の支給を実施する。

受給者① 氏名：Anton Luis Capistrano SEVILLA 国籍：フィリピン  
日本での所属機関：総合研究大学院大学 指導教授：末木 文美士 先生  
研究内容：和辻哲郎の空の倫理学における諸ジレンマ

受給者② 氏名：Monika KISS 国籍：ハンガリー  
日本での所属機関：大谷大学 指導教授：ロバート・F・ローズ 先生  
研究内容：普賢延命菩薩像の図像学的な変化

受給者③ 氏名：Van Anh Thi VO 国籍：ベトナム  
日本での所属機関：龍谷大学 指導教授：若原 雄昭 先生  
研究内容：瑜伽行派における修道論形成の研究

## (2) 日本人留学生奨学金制度に関する事項

平成 25 年度から新たな奨学金事業として日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して日本人留学生奨学金制度を設立した。

平成 26 年度奨学生の募集は、平成 25 年 7 月 1 日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約 150 通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、6 名の申請があった。平成 25 年 12 月 9 日に日本人留学生奨学金審査委員会を開催し、平成 26 年度奨学生として次の 2 名が選ばれた。この結果をもとに平成 26 年度日本人留学生奨学金の支給を実施する。

受給者①氏名：岸 清香  
海外での所属機関：ライデン大学  
指導教授：Jonathan Silk 先生  
研究内容：大乘菩薩とは何者か—大乘經典及び瑜伽行唯識学派の諸論書に対する註釈書群の比較検討—

受給者②氏名：渡辺 俊和  
海外での所属機関：オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所  
指導教授：Helmut Krasser 先生  
研究内容：インド大乘仏教における論理学思想の受容とその系譜

## (3) 世界沼田仏教講座コーディネーター会議に関する事項

当協会では、日本仏教精神とその文化を広く世界に伝えるため、北米・欧州における主要大学の仏教講座開設と運営に積極的に協力している。

平成 26 年 8 月 18 日から 23 日まで、2 年に 1 度世界中の仏教学者が集まり研究成果を発表する国際仏教学術会議（IABS）の第 17 回目の会議がウィーン大学において開催される。世界中の仏教学者が集まるこの機会を利用して、世界の沼田仏教

講座の担当教授がお互い情報交換し、より効率的な運営を目指す事を目的に「世界沼田仏教講座コーディネーター会議」を開催する。またこの学会会議の期間、当協会の活動報告や書籍の展示を通して当協会の活動を紹介する。

#### (4) 仏教伝道文化賞の贈呈に関する事項

仏教伝道文化賞は、国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を願い表彰する賞として昭和42(1967)年に創設された。

長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する。

平成26年度は10月に贈呈式の挙行を予定し、4月初旬ごろより国内外の仏教各宗派、大学等の教育機関、研究機関、仏教団体、報道機関、政府機関及び専門家等に推薦依頼状を発送して、仏教伝道文化賞及び沼田奨励賞の推薦を受け、7月頃に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、平成26年度の受賞者を決定する。

#### (5) その他の助成に関する事項

##### ①他団体等への助成

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行う。助成にあたっては、外部有識者や専門家からなる助成金審査委員会のもと、公正な審査を経て選定、助成する。

平成26年度助成対象(平成25年度後期募集分、交付時期平成26年5月頃)を審査するため、平成26年2月17日に助成金審査委員会が開催され、審議の結果、下記の団体にそれぞれ助成金を交付することが決定した。助成金審査委員会の決議を踏まえ、平成26年度は国内総額で7,950,000円、海外はUS\$253,000、€20,400、£30,000の助成を実施する。なお、ハンブルク大学への助成金額は平成26年度の収支状況に合わせて決定する。

国内(平成25年度第2回助成金審査委員会決議分)

団体名	申請事業名称
(公財) 全国教誨師連盟	教誨師の研修事業
東京親鸞会	東京親鸞会活動助成
日本印度学仏教学会	学会の情報化対応を通じた国際的学术交流及び文化貢献の促進事業
南無の会	南無の会活動助成

団体名	申請事業名称
(公財) 中村元東方研究所	第 41 回比較思想学会学術大会 (中村元博士生誕 100 年記念事業)
特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会	東日本大震災復興支援文化財救済 活動チャリティー企画「文化人・芸能人の 多才な美術展 2014」
東洋大学仏教会	東洋大学仏教会プロジェクト 単語検察ツール「イェーキロン」開発及び データベース構築事業
ひとさじの会 (社会事業委員会)	「祈りの道」再興プロジェクト
フリースタイルな僧侶たち	「経典をナナメから読む会」開催及 び書籍化事業
学校法人花園学園 花園中学高等学校	三仏忌のつどい (花まつり、成道会、涅槃会)
向源実行委員会	参加体験型イベント(寺社フェス) 「向源」開催事業

海外（平成 25 年度第 2 回助成金審査委員会決議分）

団体名	申請事業名称
Institute of Buddhist Studies (米国仏教大学院)	沼田恵範教授基金
Institute of Buddhist Studies (米国仏教大学院)	『パシフィックワールド』 出版事業
UC Berkeley Center for Buddhist Studies (UCバークレー仏教学センター)	沼田智秀仏教書籍優秀賞
UCLA Center for Buddhist Studies (UCLA 仏教学センター)	沼田恵範仏教講座基金
The University of Chicago Divinity School (シカゴ大学神学部)	沼田仏教講座活動助成
University of Vienna (ウィーン大学 南アジア・チベット・ 仏教学部)	沼田仏教講座基金
University of Vienna (ウィーン大学 南アジア・チベット・ 仏教学部)	沼田仏教講座活動助成

助成金継続交付分

団体名	申請事業名称
SOAS, University of London (ロンドン大学東洋アフリカ 研究学院)	沼田仏教学教授ポスト設立事業
Universität Hamburg (ハンブルク大学)	沼田仏教学教授ポスト設立事業

なお平成 26 年度 12 月頃助成審査対象分（平成 26 年度前期募集分：申請時期平成 25 年 6 月 1 日から 9 月 30 日）として 500 万円の予算を別途設ける

### 3. 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

#### (1) 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

##### ① 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、平成23年9月より月1回（8月を除く毎月第4木曜日、午後6時30分から午後8時まで）「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。ホームページや新聞などで案内し、毎回約30人（参加費500円）が毎月参加している。

平成26年度は、当協会が過去にアメリカでの放映を目的として作成したTV説法「Mutually Sustaining Life ～A Buddhist Call to a Troubled World～」をテキストとして、映像とリスニングに重点を置き、講座を進めていく。

##### ② 仏教聖典を生活に活かす会

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として不特定多数の一般の方を対象にホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回（第4木曜日、午後1時30分から午後4時まで、講話・質疑応答・座談会含む）専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営する。

##### ③ 仏教聖典を経営に活かす会

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や社会人を対象に案内状や当財団のホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回（第3水曜日、午後6時から午後8時まで、講話・懇談会含む）専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営する。なお、8月30日、31日には「夏季研修会」として、京都・西本願寺等を訪問し、日本仏教への理解を深めると同時に参加者同士の交流をはかる。

##### ④ 三田落語会

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。

平成26年度もこの落語会を継続し、年6回（昼・夜2部構成）の公演を企画、運営する。平成26年度の開催予定日は次の通り。

平成26年4月19日（土）、6月28日（土）、8月23日（土）、10月25日（土）  
12月20日（土）、平成27年2月21日（土）

##### ⑤ 実践布教研究会

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催しており、現在までにその開催実績

は43回を数える。

平成26年度は6月4日から6月6日まで、第44回実践布教研究会として臨済宗妙心寺派大本山妙心寺を会場に「布教伝道 ～臨済禅に学ぶ～」をテーマに開催する。今回の分科会では、「日本仏教の未来～僧侶の原点を考える～」をテーマに掲げ、討議する。

#### ⑥働くひとのための坐禅会

平成25年度より新たな企画として、現代社会において日々忙しく働く女性の疲れた頭やこころを、坐禅を通じて整理していただき、また仏教に親しみをもってもらうことを目的に専任の講師を招き、仏教聖典を使用した法話20分、坐禅40分、茶話会30分の構成で「忙しい女性のための坐禅会」を企画実施してきた。

1年間の実施経験とまた男性からの参加希望要求を受け、今日の社会においてさまざまな環境下でストレスを溜め込み、こころに余裕を持つことが出来ない方がたを対象とし、平成26年度は「働くひとのための坐禅会」（毎月1回、8月と10月を除く第3火曜日、午後8時から午後9時30分まで）として窓口を広げ継続発展させていく。

#### ⑦仏教関連講演会、シンポジウム等の開催

平成25年4月からの一般の方がたにより仏教文化、仏教精神の素晴らしさを広く知って頂く機会を提供すると同時に、日本仏教各宗派の仏教伝道の一助となるようなシンポジウムを企画している。

平成26年度はテーマを「私と仏教」とし、各方面で活躍する諸氏が仏教からどのような影響を受け、いかに日常生活の支えとなり、活かされているのかを語っていただき、これを一般の方がたに参考としていただき、仏教がより身近なものとなるよう、次の日程（予定）で「BDKシンポジウム」を企画、実施する。

##### 1) 平成26年5月16日（金）

講演者：大平 光代 氏（弁護士、エッセイスト、元大阪市助役）

##### 2) 平成26年9月3日（水）

講演者：宮崎 哲弥 氏（評論家、コメンテーター）

##### 3) 平成27年2月（未定）

講演者：香山 リカ 氏（評論家、精神科医、臨床心理士）

#### ⑧国際研究集会「Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities」の開催

仏教学術振興の促進のため、日本の若手研究者と海外の若手研究者が意見交換し次世代の近代仏教研究者のネットワークを構築することを目的に、龍谷大学ア



ジア仏教文化研究センターと協力し、国際研究集会「Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities」を京都・龍谷大学にて開催する。開催予定時期は平成26年12月13日（土）、14日（日）とし、「日本の近代仏教史」を研究する国内外の研究者約20名を招聘し、この研究集会を開催する。

⑨「ブッダのことば」写真展の開催

東日本大震災から3年が経過したが、いまだ多くの方々が仮設住宅での不便な生活を強いられている。また肉親や友人をなくされた多くの方々はいまだに大きな心の傷を抱えている。物理的な復興は進んできたが、今被災地では精神的な支えが求められている。これらの被災地の方々に少しでも、心の安らぎが得られるようブッダの言葉とそれに合わせた写真の展示会の開催を公益財団法人中村元東方研究所と協力し企画、実施する。

(2) 仏教音楽の現代化とその普及に関する事項

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤の確立を目指し、仏教音楽にちなんだコンサートや、新しい仏教音楽の作品募集などを行っている。

平成25年度は、公益財団法人への移行を機に、音楽普及委員会の創意に基づき、仏教音楽祭という名称を、ゴスペル（神の言葉）からもじった造語～Buddhaspel～（ブッダスペル・仏の言葉）とし、その商標登録をした。

平成26年度は設立50周年に向けて、全国の「音楽祭」を参考により良い企画にしていくために会議、ミーティングを充実させる。

(3) 機関誌の発刊、ホームページでの広報等に関する事項

仏教伝道協会の事業を広く知っていただくために必要なツールとして、協会の近況を報告する「心のかげはしカード」や近年の活動をまとめた冊子「ニュースレター 道」の刊行を行う。また、ホームページの充実ならびに随時内容の更新を行い、最新情報の提供、情報公開およびイベント情報などの広報を行う。

4. 施設の貸与事業

公益目的事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行う。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）価格の半額で貸出し、当財団以外の団体等も含めた多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献する。

## II. 収益事業計画

収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を平成 26 年度も継続して行い、利益のうち 50% を公益目的事業に寄付する予定である。

## III. その他

本事業計画に掲げるもののほか、この法人の目的達成のため、必要と認める事業を行う。また来年設立 50 周年を迎えるにあたり、必要な企画立案及び準備作業を進める。

以 上